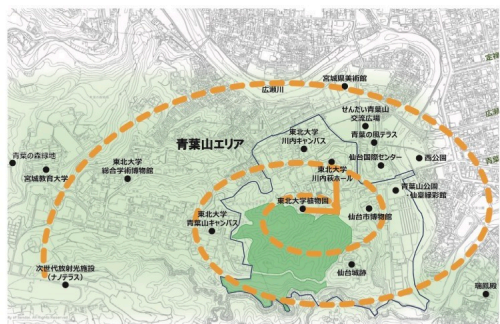


緑で繋がる“回遊性”と誰もが楽しめる施設

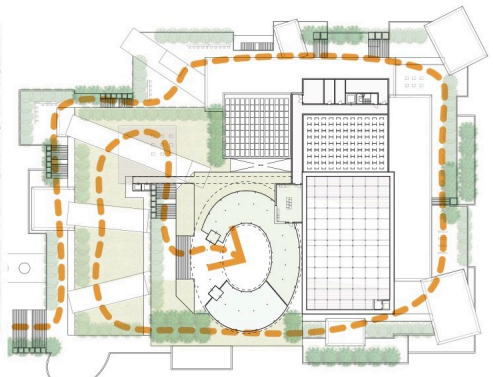
仙台・青葉山エリアの特色は、仙台城跡という仙台の歴史上最重要で、最もパノラマ的に仙台全体の美しい景色を眺められるポイントへ、文化、学術、国際交流の拠点が**豊かな緑で繋がる“回遊性”**であると言えます。今回の提案は、正にその仙台・青葉山エリアの特色である**豊かな緑で繋がる“回遊性”**をコンセプトとして、さまざまな市民活動の場、ホールそして点在させた震災メモリアルを**緑の回廊で繋げ回遊性**を生み出します。

ホール施設や展示施設はそこに興味がない人は訪れなく、そして中で何が行われているかわからない巨大なブラックボックスになりがちです。そのような認識から、大ホールの廻りに機能ごとのボリュームをセットバックさせながら積み上げ、ボリューム感を軽減させた**青葉山に溶け込む“丘”のような建築**とします。

青葉山公園と駅側広場から、開放的にそして直接的に連続する本施設の中心的空間である「交流ゾーンロビー」と**徐々に登っていく屋上テラス**は、ホールやワークショップ、リハーサル室、レストラン、カフェと**全て流動的に繋がり、屋上テラスを登っていくと、点在させた震災メモリアルを廻っていく**ことができます。屋上テラスに点在する震災メモリアルでは、それらが向いている方向の仙台の景観の先に、最新のAR技術により、**過去・未来の被災地の状況**を見ることができます。そしていくつかの震災メモリアルには、逆方向のホールに向かって「**市民観覧席**」があり、普段はホールでの音楽鑑賞や観劇をあまりしない人や子供や障害者など、**誰でも気軽にそして自由にホール内のイベントを楽しむ**ことができます。それにより、「**ホール**」と「**震災メモリアル**」「**屋上テラス（ガーデン）**」が融合した、先例のない新しいタイプの施設と環境を作り出します。



青葉山エリア周辺の豊かな自然の“回遊性”
出典『仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン』



本提案
登りながら様々な活動と出会う“回遊性”

設計を進める上で特に留意すること

建築コンセプトを軸とした意見の取り込みと説明できる建築の実現

発注者との**建築コンセプトの共有**を重視します。建築コンセプトは建築を計画する上のルールとなり、多くの関係者の意見を取り込んだとしても変わらない、この建築の骨格となります。**様々な要求を取り込んで行く**際にも建築コンセプトが拠り所となり、決定がしやすくなります。

打合せは定期的に対面で行うようにしています。打合せには建築の専門家だけでなくも理解しやすい**模型を提示し、空間を十分に理解**をもらった上で議論を進めます。使い勝手や仕様の検討には**比較表を提示し、それぞれのメリットやデメリットを提示し**、今回の計画に最適な計画を**発注者と共に選定**していきます。このように**一緒に作っていく関係**を大事にしています。またこのようなプロセスを経てきた建築は、その**成り立ちを説明できる建築**になり、**市民がその建築について話れる**と愛着が生まれます。

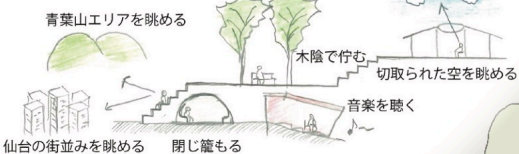


空間が把握できるスタディ模型

災害支援活動の経験を活かした展示と建築の一体的な計画を提案

我々は30年来被災地にて**災害支援活動**を行ってきました。震災メモリアル施設の展示についても**現場での体験と復興への経験**を活かし、「防災環境都市・仙台」に相応しい**世界中に発信できる展示施設**とします。過去に展示施設の設計をいくつも行ってはいますが、建築設計を始める前から展示計画が進んでいることが多く、**建築設計と展示設計が切り離された形で話が進んでいる**ことが多いです。我々は建築設計側からも展示計画を提案を行い、展示設計の関係者と意見交換をしながら建築設計を進めることで、**展示と建築が一体となったこの場所独自の展示施設**を作ります。

屋上テラスに点在するクワイエットスペース
屋上テラスに**メモリアル施設**を点在させることで、**その間の空間**をクワイエットスペースとします。人それぞれの**安らぎ方が異なる**ため、公園で佇んだり、1人で閉じこもったり、音楽鑑賞したり、空を眺めたりなど、**様々な安らぎの場**を作り出します。



多目的に使える2階エントランスロビー

交流イベントロビーを多目的に利用するために、**1階外部から2階に繋がる大階段**を設け、その先に2階エントランスロビーを設けています。それにより**大ホールの入口は1階にも2階にも設定**できます。また2階エントランスロビーは展示スペースやコンサートの物販スペースなど、**イベントに合わせてフレキシブルに使用し、交流イベントロビーを多目的に利用**しやすくします。

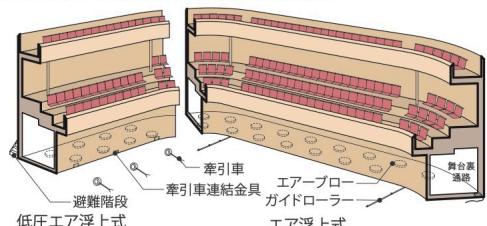
コスト縮減に関する提案

早期の概算見積によるコストコントロールと建築プログラムの最適化

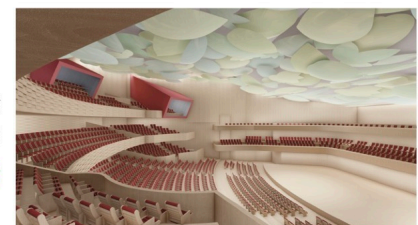
基本設計時の**建物の方向性が出た段階で、概算見積**を行います。そうすることで全体コストの比重が高く変更しにくい**躯体、外装などのコスト**が把握でき、コストコントロールがしやすくなります。また要求室の使い方を想定し、**家具なども落とし込んだ図面を作成し**、使い勝手を詳細に議論しながら設計を進めていきます。そうすることで、本当に必要な大きさや他の室で代替できる部屋などが浮かび上がり、**全体面積の最適化**を図れ、コスト縮減にも繋がります。

アリーナ型→プロセニウム型転換計画

舞台転換システムは過去に様々なタイプを検討しており、天井反射板と客席を分けたタイプがコスト、使い勝手面で優れています。**正面、側面反射板付移動観覧席を3台用意し、エアブローで浮かし、牽引車で移動**させます。**6名の作業員で1時間40分程度で転換**が可能です。



音響反射板付移動観覧席のイメージ



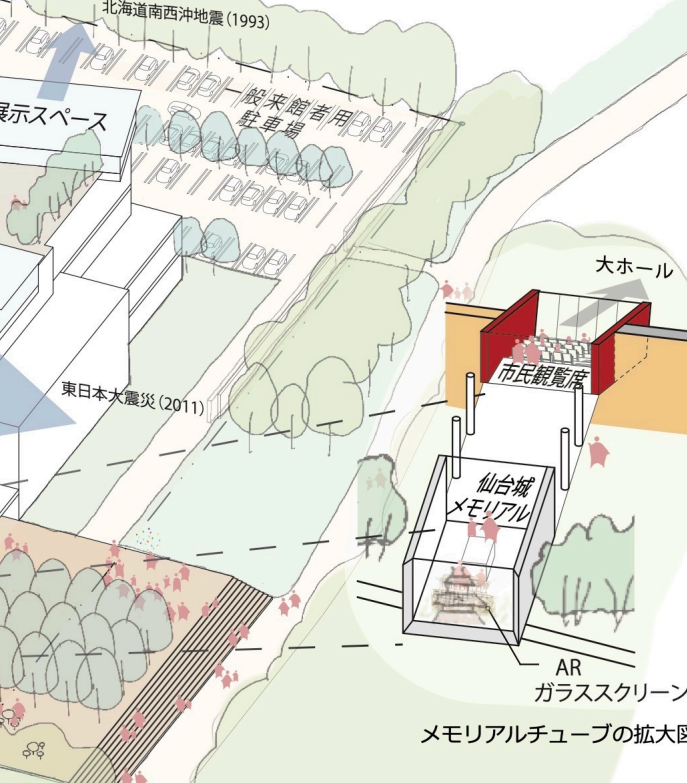
音楽ホール（アリーナ）形式



プロセニウム形式

多目的に使える市民観覧席

被災地を臨むメモリアル施設は大ホールと小ホールに伸び、**市民観覧席**となります。メモリアル施設とホール施設を建築的に関係づけます。市民観覧席は、**積極的に市民にイベント体験**をできる機会を与えるだけでなく、一般的なホール施設の多目的室のように**親子室利用や食事をしながらの音楽鑑賞**など多目的な利用が可能です。



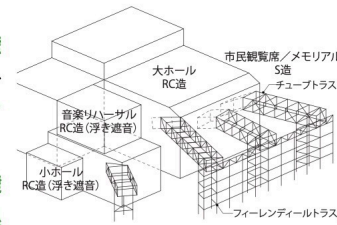
青葉山公園とのつながり

青葉山公園の杜がそのまま建物の上につながっていきます。1階の**大デッキ**とカフェが公園からの人々を迎え、そのまま緩やかに、**デッキ広場、子供の遊び場、緑とメモリアルの回遊空間**へと人々を導きます。

コスト縮減に関する提案/将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

大ホールを耐震コアとしたフレキシビリティの高い構造計画

遮音性能が必要な**大・小ホールはRC造**とし、その周りに取り付くボリュームは**大スパンが可能な鉄骨造**とします。RC部分の**外周壁を耐震壁**として大半の地震力を負担させることで、鉄骨造の部分は**壁を最小限**にでき、部屋の形状・配置変更など、**将来的なレイアウト変更が容易**です。深さが必要な**奈落部分は地下**を作り、**良好な支持地盤に直接基礎**とし、その他は**掘削量を削減**するために**地下は作らず、地盤改良の上**に**直接基礎**とした、合理的な基礎計画でコストを抑えます。



トラス構造で大空間を支持

自然エネルギーの活用とそれらを建築デザインに取込む環境設備計画

仙台の年間を通して**比較的温暖で日照時間の長い気候風土**を活かし、**太陽光発電、昼光利用、自然換気、地中熱利用等、再生可能エネルギー**を積極的に活用し、更に、**日射遮蔽や開口部の制御、断熱**をしっかりと行うと同時に、**高効率機器の導入とセンサー技術**を用いた**最適な制御**を行うことで、**ZEB Ready以上の性能を達成**します。設計チームは過去に井水を空調利用しそれを水景にしたり、**太陽光パネルを日除け**に使ったりと**省エネ技術を建築デザイン**に取込む試みを行ってきました。そして**新築の博物館で最初にZEB Readyを取得した実績**があり、**ZEB Ready以上の達成**とそれに伴う**補助金の取得**のアドバイスも可能です。また将来の設備の更新や最新設備の導入が容易にできるように、**設備スペースを10%余裕を持たせた計画**とします。そして各設備スペースへの**搬出入エレベーター動線**と設けます。デザイン性と機能性を兼ね備え、災害時の機能維持を考慮し、かつ将来にわたる運用・維持管理も見据えた**環境設備計画**を提案します。